

社団法人 日本ジュニアヨットクラブ連盟

平成22年度第一回通常総会議事録

日 時 平成22年6月14日（月）18時00分～19時10分
場 所 東京都中央区京橋区民館 会議室
東京都中央区京橋2-6-7

1. 定 足 数 の 確 認

出席会員14名、委任状35名、合計49名。従って正会員現在数80名の2分の1を超えて第28条（総会成立）の定足数に達しており、本総会の成立を確認した。

2. 開 会 の 挨 拶 佐藤精知夫副会長

石原会長が公務の為欠席となったので、会長代行の佐藤精知夫副会長が開会の挨拶を行った。

3. 来 賓 の 祝 辞

(1) (財) B & G財団 総合推進チーム部長遠藤卓男氏

- ・ 2月総会ではB & G財団会議室をご利用頂き感謝しておりますが、今回は当方の都合でご使用頂けず申し訳ありません。広渡専務が出席予定でしたが評議委員会と重複してしまい代理でご挨拶の代読をさせていただきます。
- ・ 全国の海洋センターでジュニアヨットクラブの皆さんにはお世話になっておりお礼申し上げます。貴連盟は青少年の育成に努力されており、5月オープン大会も30回を迎えられた由、B & G海洋センターからも多数参加させて頂いています。このような発展は石原会長のご指導の賜物と思います。
- ・ 水の事故が多いのでJ S A Fも含む関係7団体で「ウォーターセーフティニッポン」を3月に立ち上げ、水の事故ゼロ運動推進活動を進めている。パンフレットを配布させて頂くのでご理解、ご協力下さい

(2) (財)日本セーリング連盟、副会長河野博文氏

- ・ J S A Fの現況を説明してご挨拶に代えたい。財政状況が厳しいので、皆様のご理解を得て、会費値上げを実施した。会員の更なる減少を心配したが、減少傾向は弱まった。若い人が増えないと日本のセーリング界の活性化が出来ないので、J J Y Uのご協力をお願いします。
- ・ 外洋関係では沖縄レースが復活した。J S A Fはディンギーからキールボートまでシームレスに活動をカバーしたい。
- ・ 貴連盟の青山さんにはJ S A Fジュニアアカデミー副委員長をお願いしている。この活動は昨年からはじめれ全国のジュニアクラブにオリンピック選手等プロのコーチを派遣して開催している。予算もまだあるので是非申し込みをして欲しい。

4. 議 長 選 出

定款第26条により会長が議長となるところ、本日は公務で欠席の為、定款第14条の2により、佐藤精知夫副会長が議長に選出された。

5. 議 事 録 署 名 人 選 出

定款第30条による議事録署名人選出は議長一任の議決により、以下の2名が議長より推薦され全会一致で選出された。

龍川 宗一氏（江東ジュニアヨットクラブ代表者）

中川 二郎氏（横浜ジュニアヨットクラブ代表者、（社）日本ジュニアヨットクラブ連盟理事）

6. 議 案 審 議

1) 第一号議案 平成21年度事業報告書(案)承認の件

伊藤専務理事より配布資料に沿って平成21年度事業報告書(案)の説明を行った。

今年の2月の総会の時に中間事業報告として説明した内容と基本的には同じで、その時点では予定であったものの、それ以降に実施した行事（指導者研修会、安全講習会、ジャパンボートショー2010出展）の箇所を変更した。

オープン大会は東日本地区は山中湖、西日本地区は広島県広島観音マリーナで行いましたが、毎年佐賀県唐津で行われるJSAF主催のユース大会、ジュニアオリンピック大会と今年も重なり西日本地区大会にはシーホッパー級SRとミニホッパー級が1隻も参加しないOP級だけの大会でした。又昨年につき、同時期にOP級九州大会が開催されたこともOP級の参加数減になったと考えられます。

若洲の全国大会では、2016年夏季オリンピックを東京へ招致しようという東京都、(財)日本セーリング連盟の招致活動に協力して、海外チーム8カ国を招聘して、成功裏に終了し、外国チームに評価は大変高かったが、IOC総会には裏りませんでした。

その後、議長より第一号議案の承認を求めたところ、全会一致で承認可決された。

2) 第二号議案 平成21年度財務諸表(案)

伊藤専務理事より配布資料に沿って平成21年度財務諸表(案)について説明を行った。

一般会計と大会別の3つの特別会計とに分かれており、特別会計は2月の通常総会で既に終了していたので説明済みです。

一般会計は収入、支出の項目別には収支予算書と差異が出た項目もあったものの、ほぼ収支トントンでした。

以上の説明後に、議長の要請によって、大房監事より監査報告があった。

「5月21日に石崎、大房両監事により監査を行い、財務諸表の通り、極めて適切に処理されており、法人の収支状況、財産状況を正しく示している。又、理事の職務執

行に関しても不正、法令・定款違反の事実はない」と報告された。

その後、議長より第二号議案の承認を求めたところ、全会一致で承認可決された。

議長は、以上をもって平成22年度第一回通常総会の議案の審議は全て終了したので、19時10分開会を宣言した。

7. 報 告 事 項

(1) 第30回日本少年少女オープンヨット大会について：

大会実行委員長の熊川 博連盟委員より、実施報告が行われた。

今年は、東日本、西日本合同の全国大会として、ジュニアヨット発祥の地、江の島ヨットハーバーで開催、107名の参加で、好天に恵まれ良い大会でした。

新しい試みとして、大会初日はトライアルレースではなく、「セーリング・ピクニック」という趣向で、参加の所属クラブに関係なく混成の10チームに分かれて、江の島から烏帽子岩まで往復し、途中で伴走艇から弁当や飲物を受け取り、昼食を海上で食べるという大会初日の催しは、大変に楽しく評判が良かった。開会式後の交流会もこのチーム別にテーブルを囲んでスタートし、クイズなどで楽しんで、友達が広がったという評価を得た。

天候と風にも恵まれ、運営もスムーズでレースが早めに終わったので、水族館に行ったり、展望台に上ったりという自由時間が取れて皆さん楽しめたと喜んでいました。

(2) ジュニアヨット・クリーンエコセーリング大会2010（中海・宍道湖ラムサール条約記念全国大会）について

6月12日(土)～13日(日)鳥取県米子市で開催され、地元で中心となって運営した内藤理事が直後の行事等で総会に出席できないので、大会に出張して運営に当たった中根理事から報告があった。

5年前に中海・宍道湖がラムサール条約湿地に登録されて、翌年から鳥取県、島根県両県民（4市1町）が一斉清掃活動を毎年6月第2日曜日に行うというので、その時に合わせて子供たちも清掃活動に参加してヨット大会を開催しようという企画の新しい大会で、鳥取、島根両県、米子、松江両市等も後援して頂けるということで、環境省も文部科学省も後援して大臣賞が頂けることになった。

初めての大会ということと、北信越大会等他の大会と日程が重なったり、他の大会と2週続きになった等の理由で参加選手は少なかったが、指導者や運営の方、米子市役所の皆さん等協力者が多数で、島根県知事夫妻、鳥取県副知事、米子市長もレースを観戦、閉会式にも出席し、賑やかな大会となり成功であった。

初日は好天と風に恵まれ5レースを実施、2日目の朝は、両県の一斉清掃活動の開始の式典に子供たち、指導者、役員も参加し、それから海岸の清掃を行い、途中からレース会場に戻ってレースを再開し2レース実施し合計で予定の7レース

を完了する事が出来た。

来年は宍道湖(松江市)で開催予定で、子供たちを集める工夫を考えたい。

- (3) 国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2010(東京大会)について
東京都セーリング連盟副理事長落合光博氏より、既に5月25日申込書を各クラブに発送済みであること、式典会場は2007年大会と同じマリナーズコートで外国チームもここに泊めて会場への送迎はホテルのバスで出来ること、他の宿泊施設は海員会館が新築され割安で宿泊できるなどの準備状況の説明が行われた。

小野常務理事より例年通りスポーツ振興基金助成が受けられることと、東京都からも(財)東京都スポーツ文化事業団を通じて補助金が受けられる旨報告された。

8. 閉会

司会進行の吉村事務局長よりこれで総会での報告事項が終了したことが案内された。

最後に、佐藤副会長より閉会の挨拶があり、散会した。

(9時10分に終了する。)

上記の決議を明確にするため、議長及び議事録署名人は記名、押印する。

平成22年6月14日

議 長

東京都杉並区本天沼3-23-2

佐藤 精知夫 (印)

議事録署名人

東京都江東区南砂1-5-30-1315

瀧川 宗一 (印)

(江東区ヨット連盟ジュニアヨットクラブ代表者)

議事録署名人

横浜市旭区市沢町946-30 B-22

中川 二郎 (印)

(横浜ジュニアヨットクラブ代表者、
社団法人日本ジュニアヨットクラブ連盟理事)